

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2017/09/20～2017/09/30)

1. 勉学の状況

授業は9月25日の9月最終週から始まることになっていたのですが、滞在許可書(Permesso di soggiorno)の手続きとお世話になる先生方にご挨拶に伺っていたため、授業は途中参加になりました。基本的に同じ授業が週2回、または3回あり基本的には9月終わりから1月までの授業となります。私が現在留学しているボローニャ大学農獣医学部には、全ての授業が英語で開講される「International Horticulture」という大学院の学科があり、約7割がイタリア出身学生、残りがイタリア以外から来た学生の計40名ほどが所属しています。ヨーロッパ出身の学生が多いですが、ヨーロッパ以外では、エチオピア、イラン、インド、タイ出身の学生がおり多国籍な学科です。1つの授業が2時間で、先生によっては途中で10分ほど休憩をとってくださいますが、休憩がないことも多いです。千葉大学では1.5時間の授業でしたので、少し授業時間が長いなと感じることもあります。休憩中には、自動販売機や大学内のカフェでコーヒーを飲んでいる学生や、外でたばこを吸っている学生がおり、ちょっとした休憩時間でも日本との違いを感じています。

授業は、昆虫学・園芸経済学・温室技術学を受講しています。授業はパワポで行われますが、授業前にパワポは配布してもらえないため、パワポを見ながら先生がおっしゃっていたことやパワポの内容をノートにメモをとっています。聞き取れない英語も多いため、まずは聞き取れる部分を書きとめることに集中しました。昆虫学では、寄生虫などを利用した日本とは少し異なったイタリアの害虫対策を学び、温室技術学では温室の要素や様々なタイプの温室について学んでいます。1番面白いと感じているのは、マーケティングや有機農産物について学ぶ園芸経済学の授業です。

2. 生活の状況

ボローニャは慢性的な住居不足が問題となっており、留学前滞在先探しに1番苦労しました。ボローニャ大学のSAISという組織が留学生の滞在先探しのサポートとして滞在先探しの手段(サイトやfacebookのグループ)などを教えてくださるのですが、滞在先は自分で探し、手配しなければなりません。半年から1年以上の滞在契約が必要な滞在先が多く、約5か月の滞在中も契約できる滞在先がなかなか見つからなかったです。最終的には、最初の10日間日本人の奥さんのご家庭にホームステイ、その後Uniplacesというサイトで見つけた家でシェアハウスをすることになりました。最初の滞在先では、同じく日本の大学から私より2週間前に留学をはじめた方もいらっしや、日本人の奥さんと一緒に私を支えてくださりとても心強かったです。

入国後忘れてはならない 滞在許可書 (Permesso di soggiorno) の申請についても書きたいと思います。他の大学に留学される方は分からないですが、ボローニャ大学に留学される方は滞在許可書申請の前に、まず大学の学務にチェックインをしに行ってください。学務の方で必要な書類を教えてください、滞在許可書の書類を準備して下さる移民の為の事務所に予約をいれてくださります。その後書類を準備し、指定された移民の事務所に行きます。次に、イタリア入国後 8 日以内に郵便局に行き、書類を提出します。最後に郵便局で警察署に行く予約をとってくださるので、警察署に伺い指紋を採取されれば、後は滞在許可書が出来上がるのを待つのみです。通常は、出来上がるまでに 3~4 ヶ月ほどかかってしまうそうです。

 <イタリアの食べ物>

スーパーでは生ハムを始め、様々なハムが売られています。さすがイタリアで、トマトの種類も多く、使い分け方が分からないくらいあります。未だに慣れないのが野菜や果物は〇€/kg 表示で、自分で好きなだけ袋に入れて会計になります。



好きな量だけ買うことができるのは良いのですが、重さの感覚がつかめず値段が計量するまで分からないのはヒヤヒヤします。

ピザは本当に美味しく、安いので毎日食べたくなってしまいます。写真のピザは友達が勧めてくれたこちら辺で 1 番安いピザで、なんと窯で焼きたてのホールピザを 3.5€ (500 円弱) で食べることができます。リピートしています。

ジェラート屋さんには街中にあり、味の種類が多くどれも美味しいので、すぐにはまりました。基本的には、2 種類の味を選ぶことができるので、毎回どの味にしようか迷ってしまいます。1 番よく食べる組み合わせは、ピスタチオとチョコレートです。写真は、リコッタチーズ (南イタリアで作られる乳清チーズ) とチョコレートのジェラートです。



海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2017/10/01～2017/10/31)

1. 勉学の状況

イタリアでの生活にも少しずつ慣れてきました。現在昆虫学、温室技術学、園芸経済学の3つの授業をとっています。今回は授業内で行われた、フィールドトリップやセミナーについて書きたいと思います。授業によっては、通常の座学の授業に加えて、企業や農園を訪問するフィールドトリップや、外部講師や大学院生や授業に関連した研究を行っている他の先生方のお話をお伺いする機会があります。

昆虫学の授業では、寄生虫をはじめとした、虫を利用した害虫対策製品を販売している「Bioplanet」というヨーロッパトップ3の企業に訪問しました。メインの製品は標的の害虫に寄生虫が寄生をすることを利用した害虫対策で、日本では生物農薬とも呼ばれています。生きている虫をそのまま販売しているのは、あまり馴染みがなかったためとても興味深く、生物を扱っているからこそ品質や期限などの制限が多く難しいこと、農家さんの理解が不十分であり価格も化学農薬と比べて高いことからまだ普及率が低いことなど課題についても学ぶことができました。フィールドトリップの他にも、大学の研究室訪問で様々な虫、卵、巣などを拝見しました。写真で見ると、実際に動いている実物を見るのは異なり、「この種類のショウジョウバエの羽の特徴、授業で習った通りだ」など学びを振り返る貴重な機会となっています。

温室技術学の授業では、同じ経営者さんの2つのトマト農園を訪問しました。日本では大学のトマト農園と研究所のトマト農園で作業をしたことがありますが、生産農家の農園に行くのは初めてで、効率や利益を意識した様々なポイントを学びました。1番最初に目に入ったのは、約5mの温室の天井からトマトを支えるためにぶら下がっている紐です。日本で見たトマト農園にもトマトを支えるための紐は使われていますが、人の手が届く高さ(2m程度)で長さ調整をする際には1度紐をほどき、再度結び直さなければなりません。しかし、この今回訪問した農園とポローニャ大学の温室では、ハンガーのような金属を使って紐を巻き取ることで簡単に長さ調整ができるようにしていました。



また、トマトを支えるために紐の他にも1台のPCで温室に関わる全ての環境データを管理しており、決められた値より高いまたは低い場合にはサインがでるなど、すぐに現在の状況を確認できるようになっていました。同じ経営者さんの農園でも高価格で販売する用、もう一方はそれに比べて低価格で販売する用で、施設への投資費用が異なっていました。ターゲットや販売方法に合わせた価格設定を行うための、施設のレベル感を感じ取ることができ、面白かったです。

園芸経済学では、TED Conference（ハイテク系の様々な分野の人物の世界的な講演会）の講演者に対してプレゼン指導をされている方が外部講師としてプレゼンの授業をしてくださいました。講師の先生の、学生からの関心のひきつけ方がうまく、最初から最後まで楽しかったです。良いプレゼンのために避けるべき10個のことを教えていただいたのですが、私が一番大切にしたいと思ったのは、観客目線です。プレゼンは私が話したいことを話すのではなく、観客が知りたいこと、興味があること、観客にとってよい学びになることを話すべきであると学びました。ポローニャ大学では、授業内でプレゼンやテストにショートプレゼン（フレッシュトーク）をすることが多いです。以前までその際のテーマ選びでは「自分は何をプレゼンしたいか？」から考えていました。しかし、この授業後からは「相手は何を知りたくて、私が提供できる内容はどんなことだろう？」から内容を考えるようにしています。マーケティングを学び、相手目線を意識していたこともあり、この教えが1番自分の中にずっと入ってきたとともに、重要であると思いました。プレゼンは得意ではないですが、TED Conferenceのプレゼンが好きで憧れなので、そんな誰かの心を動かせ、観客に楽しんでもらえるようなプレゼンを目指していきたいです。

プレゼンに関連して昆虫学のテストでは、授業の内容に関連していればテーマはなんでも良いというフレッシュトーク（5分程度のプレゼン）がありました。最初は寄生虫に興味があり、また今回初めて学んだため「日本の茶園における寄生虫を利用した害虫対策」について話そうとしていました。しかしプレゼンの準備途中で、園芸経済学のプレゼンの授業を受け「このプレゼンは誰に向けてやるのだろうか？このテーマでいいのだろうか？」という疑問が浮かび、内容を変更しました。先生が専門で研究されていた内容が、現在ヨーロッパや北アメリカの果実に大きな被害を起こしている、日本（アジア）起源のオウトウショウジョウバエでした。授業中に日本では天敵の存在などで、被害がないとおっしゃっていたため、「本当にそうなのか？」また、「日本語で書かれている文献や研究内容は、先生にとって価値になるだろう」と思い、オウトウショウジョウバエの被害と対策法、またフィールドトリップで訪れた「Bioplanet」がオウトウショウジョウバエ対策のための寄生虫の販売を始めたため、生物農薬（寄生虫など）の日本での利用と可能性について話しました。先生も興味を持ってくださり、かつ、自分自身では日本での生物農薬の現状についても理解が深まったため、学び多き良いプレゼンにできたと思います。

2. 生活の状況

日本人の奥さんのお家からお引越しをし、ドイツとフランス出身の大学生の4人でシェアハウスをしています。典型的な朝型であるのと、1人の時間が欲しいと思いシングルルームを探したのですが、見つからなかったためツインルームに1人で住んでいます。日本に比べて学生向けの物件にはツインルーム（ツインベット）が非常に多いです。1人部屋に住みたい方は、特に早くから滞在先探しを行うか、見つからなかった場合ツインルームを探すことも考えてみてください。（ツインルームを1人で借りる場合と2人で借りる場合は家賃が異なることがあるため、お気を付けてください）大家さんがとてもフレンドリーで、ルームメイトとともに、たまにご飯を食べに行っています。その際は、大家さんがイタリア語のみで会話しようとおっしゃるので、知っている単語でなんとか会話についていこうとしています。ほとんど理解できません。自分の伝えたいことを上手く伝えることができた瞬間の喜びをやる気にして、少しずつ聞き取れること、話せることを増やしていきたいです。

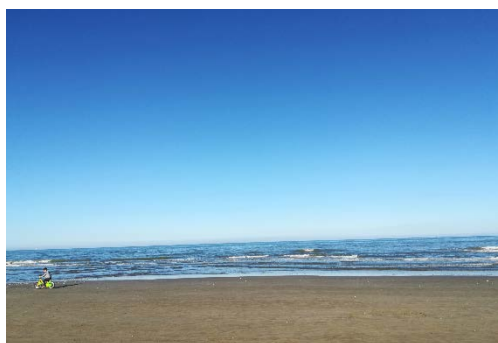
言語に関してですが、私はイタリア語を話すことができず、英語も流暢に話すことができません。そんな私が大切にしていることは、笑顔と常に理解しようとする姿勢、伝えようとする姿勢を持つということです。私にとって言語とはコミュニケーションのツールの1つです。うまく使えることができればベストですが、言語が話せないからといってコミュニケーションがとれないとは思っていません。例えば、ジェスチャーや表情、筆談、Google翻訳など他にも方法はあります。イタリア語で伝えたいことがある際には、言いたいことや聞かれると予想できる質問を事前にGoogle翻訳で調べて紙に書き、できるだけ覚えてから話しかけています。英語でも、うまく伝えられないからと表情を暗くせず、笑顔で「ちょっと待って、えーつと」と常にワタワタしながら会話を止めないようにしています。言語の壁で辛さを感じることは多いですが、この笑顔と理解し伝えようとする姿勢は崩さず、それと同時に常に学び吸収することを意識し、前向きに取り組もうとしています。正直言語に限らず様々な場面でうまくできないことを痛感する日々です。しかし、ポジティブに考えると、できないことが分かるのはお得でプラスことだと思っています。なぜならば、その気づけたできないことができるようになれば、なんと1つできることが増えたことになります。「今できなかったなら、次の時にはできるようになっていればいい」と考え、できることを増やしていきたいです。

次に日本語について日々の生活で感じたちょっとした嬉しいこととお話したいと思います。バス停やお店で数回「日本人？」や日本語の単語で話しかけてもらったことがあります。「ありがとう」「さようなら」なぜか「もしもし」などの単語をご存知でした。また、日本人ですと答えると、ご存知の日本語の単語を話してくださる方もいらっしゃいます。ヨーロッパという離れた土地で何かをきっかけに日本語を覚えてくださったこと、そして話しかけてくださったことがとても嬉しく、心が温まりました。また、クラスの友達も「この日本語の発音や、これって日本語でどのように言うの？」と聞いてくれ、歩み寄ろうとしてくれます。日本では当たり前にも

思わず使っていた、ちょっとした 1 言の日本語が私と色々な人々を繋げてくれ、改めて自分の言語が好きになったとともに、より大切にしていきたいと思いました。

留学を通して、違う環境にいて今まで当たり前であったことに目が向き、気づいたこともあったと思います。残りの留学生活でも様々な「気づき」を増やしていきたいです。

日本から同じくボローニャ大学に留学に来ている友達と、過去に日本に留学に来ていたイタリア人の友達の 5 人でリミニとサンマリノに行きました。リミニは海辺のリゾート地で、サンマリノは世界で 5 番目に小さく（山手線の内側と同じ大きさ）、現存する最古の共和国です。リミニへはボローニャから電車で 1.5 時間しかかかりません。サンマリノでは入出国手続きはありませんが、5€で入国記念ビザを発行してくれます。サンマリノの郵便ポストは白色です。ちなみにイタリアの郵便ポストは赤色です。世界的に見ても白色のポストは珍しいようです。



ローマ出身、ハンガリー出身の友達の 3 人でフィレンチェに行きました。特急列車に乗ったた

めボローニャから 40 分ほどしかかからなかったです。朝は天気が悪かったのですが、午後から天気がよくなり、景色も非常に綺麗に見えました。最後には、アイリッシュパブでイタリアに来て初ビールを頼みましたが、ビールが苦手でアルコール度数も高かったので半分も飲めず、残りはお酒大好きな友達に飲んでもらいました。後日ボローニャで飲んだビールやワインは美味しかったので、日本に帰る頃には、ビール・ワインが大好きになっていそうです。



海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2017/11/01～2017/11/30)

1. 勉学の状況

11月が始まって、新しい授業も始まりました。11～12月は9月からの続きで、園芸経済学・温室技術学と、新しく始まった蔬菜学、品質学、病理学の計5つの授業をとっています。これが1週間のスケジュールです。授業は9時から始まり、お昼休憩が1時からで午後の授業は1時30分か2時から始まります。授業によってはお昼休憩が30分もないので、忙しいです。これらの授業にプラスして、研究室での実験やグループワークがあります。

	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri
9:00 10:00	Plant Pathology	Horticultural Economics	Plant Pathology	Vegetable Crops	Pathology
11:00 12:00	Product Quality Management	Product Quality Management	Horticultural Economics	Horticultural Economics	Vegetable Crops
13:00					
14:00			Greenhouse	Greenhouse	Greenhouse
15:00		Vegetable Crops	Product Quality Management		
16:00					

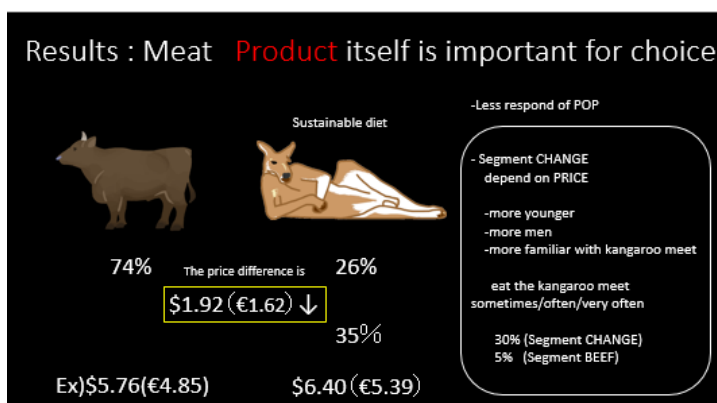
■園芸経済学

園芸経済学の授業では、英語論文のプレゼンをしました。以前、プレゼンの方法の授業を受けてそれを全体の前で実践する貴重な機会になりました。英語の論文をプレゼン形式で発表するプレゼンで、テーマは「健康的で環境に優しい商品に対する消費者選択」でした。通常の商品と健康的で環境に優しい商品があった際、値段の上下とロゴやラベル（健康的、環境に優しいという表示）の有無が、消費者の商品選択にどれほど影響を与えるかという内容です。また、その違いは商品によっても変わるのかを白米と玄米、牛肉とカンガルー肉、生トマトと缶詰トマト（パスタソース用）の3つの商品をアンケート形式の結果から比較しています。結果としては、基本的に値段が下がることで、健康的で環境に優しい商品を選択する消費者が増えました。しかし、牛肉とカンガルー肉の場合は、嗜好の問題やカンガルー肉を食べたことがあるかなど商品自体の影響が多く、値段が下がってもあまり消費者の選択に変化はあまり見られないということが分かりま

した。よって、消費者が健康的で環境に優しい商品を選択しやすくするためには、牛肉からカンガルー肉のように大きな変化ではなく、白米から玄米のようなハードルが低い、小さな変化を作るべきという結論でした。

今までプレゼンをしたことがあります。内容は自由なものが大半でした。よって、1つの論文を題材にしてその論文から重要な点のみを抜き出し、15分程度という限られた時間で理解してもらえるようにプレゼンをするのは難しく、特に様々な内容が含まれている論文の中からどの内容を取り上げるか選定するのに悩みました。

本番はスクリプトなしであったので、余計に緊張してうまく話せず、「言い忘れた、このように言ったほうが分かり易かったかも、周りの反動的にこの部分の説明が足りなかったかな」という反省が多くありました。しかし、常に観客を見ることを意識し、ゆっくり話すことはできていたと思います。まだ、何回かプレゼンがあるのでこの反省を生かしていきます。

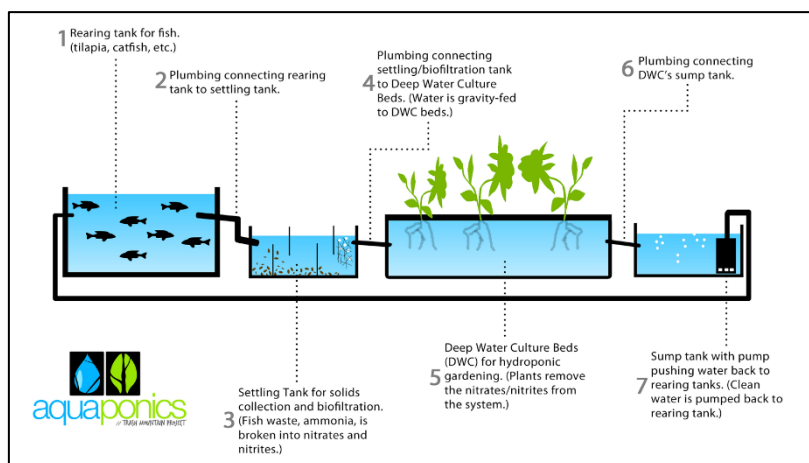


受講している授業の半分程度でプレゼンが課され、ヨーロッパ出身のクラスの友達に聞いてみても、授業でプレゼンはよくやると言っていました。プレゼンをするためには、受け身ではなく、自主的に関連情報を集めるので、本当の意味で知識が身につけているかもしれないと感じました。

他のクラスメイトのプレゼンも拝見したのですが、スライドの作り方、雰囲気作り方、観客の注意をどうやって引き付け続けるか、など勉強になりました。話し手から聞き手への一方通行のコミュニケーションになりがちなプレゼンで、1番聞き手を引き込み盛り上がったプレゼンでは、所々に投げかけの質問をし、答えてくれた人にプレゼントとして飴を投げていました。どんな答えでもよくて、正解とかけ離れた答えでも笑いに繋げ、一つ一つの回答に簡単にコメントをしていたことが印象的です。それは、正解の答えが欲しいのではなく、一緒にプレゼンに参加しやすい雰囲気を作ることが重要であったためだと思います。プレゼンをしている人もプレゼンを楽しんでいましたし、今までで一番楽しいプレゼンでした。私も、このようなプレゼンができるようになりたいと思ったと同時に、質問を投げかける際には正解を望むのではなく、どんな答えもうまく生かすことを重視して、その力を身につけたいと思いました。

■温室技術学

温室技術学ではグループプレゼンがあり、「アクアポニックス (aquaponics)」というテーマで発表しました。アクアポニックスとは、水耕栽培（土を使わず養分の含まれた水での野菜栽培）と水産養殖（魚の養殖）を組み合わせたシステムで、同じ水を循環させて使います。つまり、魚の水槽と野菜を栽培する場所が繋がっていて、野菜の栽培のために必要な水が、魚の水槽から引き取られます。魚の糞や水槽のゴミに含まれる栄養素を野菜の栽培に使うため、化学肥料や農薬が必要ではなく、近年注目が高まってきている栽培システムです。現在ヨーロッパでは、50の研究機関と、45の企業がアクアポニックスを取り扱っており、日本でもこのシステムを販売している企業があります。しかし、今までアクアポニックスについては聞いたことがなかったため、とても面白く、自然世界を簡略化した縮図のようでとても興味を持ち、プレゼン後も自分で学びを続けていこうと思います。



←プレゼンで使わせていただいた資料です。左から、魚のタンク、魚のゴミを除去するフィルターのタンク（機械のフィルターとバクテリアによる分解）、植物のタンク、酸素ポンプのタンクです。これらが繋がって、水が循環するシステムです。

また、ビジネス的な利用以外にも、「アクアポニックス」は子どもの自然教育（生物）にも使えるのではないかと考えています。小さな魚の水槽を使えば、教室に設置し、世話をしながら自然の生物同士の関わりを学ぶことができ、実践的な日常生活に近い学びになると思います。私は教育にも興味があり、問題意識として学校で学ぶ勉強と、日常生活が離れているということを感じていました。学生が勉強に面白さを感じることができず、嫌々仕方なく勉強せざるを得ない理由の一つが、学びを生かす場、学びを日常生活で感じられる瞬間がほとんど無いからではないかと考えています。上手く言葉にできないですが、学校の学びと日常生活の距離を0にするのが私の小さな夢なので、この先もアンテナを張っているいろいろな方法を見つけていきたいです。

次にグループプレゼン自体についてお話しします。元から自分の意見を言うことが得意ではないためグループワークに難しさを感じていました。周りに迷惑をかけたくないという思いが強かったのですが、実際は他のプレゼンの準備と被り準備を始めるのが遅くなってしまふ、また Literal paper を書くための研究論文を上手く集めることができないなど迷惑をかけてしまい、かつグループ自

体も個々の事情で途中メンバー2人が抜けるなどの問題も起こったため、上手くいきませんでした。留学始まって1番、精神的に疲れた時期でした。深く反省して、次のプレゼンからは準備を十分余裕を持って早くから行い、しっかり自分の意見を伝えようと心に決めました。また、本番では他のプレゼンで本番緊張して話せなかった反省を生かして何度も繰り返して練習したことで、程よい緊張感で話すことはできたのですが、スクリプトを読まないことを意識しすぎて、時間を使い過ぎてしまい時間が足りなくなっていました。もう一度12月に他の授業でグループプレゼンがあるので、その際はゆっくり話しても少し時間が余るくらいの文章量にし、より本番に近い形で練習をします。何度もプレゼンで失敗して、落ち込んでいる部分も大きいですが、失敗を少しずつ次に生かすことはできていると思うので、「できなかったことは次回までにできるようにする」を目標に前に進んでいきたいと思います。

■ 蔬菜学

授業で「ETA BETA」という非営利団体の「スペースバディック」という施設を訪れました。この施設は、昔建設され利用されていなかった建物再利用したもので、子どもたちの教育や障害を持った方々の社会復帰のための仕事場、練習にも使われています。廃材や使わなくなったガラス瓶などを集めて、新しく家具や陶器を作り販売し、またワークショップで学校に小さく切った廃材を提供し、子ども達の工作のために使っています。この施設には有機栽培をしている農場もあり、メンバーになった一般会員は栽培に参加しそこで栽培した野菜を受け取ることができます。また時期に合わせて様々な野菜を栽培しており、一つのバックに好きな種類の野菜を好きな量だけ詰めることができる販売方法をしているそうです。レストランも併設されており、収穫したての野菜を美味しいワインとともに楽しむことができます。



実は、訪れた数日前まで日本料理のイベントがあったらしく、施設に日本料理のチラシが置いてありました。ラーメン、お寿司、伝統的な日本料理、高級日本料理をシェフの伊藤裕隆さんという方が作られたようです。現地に根付いた活動をされている非営利団体の施設で、日本を見つけることができるとは思わなかったので嬉しかったです。

また、友達も先生も「日本料理のチラシがあるよ」と声をかけてくれ、友達は学校に戻った後に「日本料理」という文字の意味や読み方を聞いてくれて、頑張ってノートに漢字を書いてくれました。つくづく、日本語（漢字、平仮名、カタカナ）は日本語に触れたことがない人にとって、どのように見えているのかなと気になります。

「ETA BETA」の活動の話に戻ってしまうのですが、この活動内容を聞いて、「もしかしたら私のやりたいことに近いかも」と、とてもワクワクしました。私は今学部3年生で卒論内容、帰国したら就活が始まるため将来やりたいことを考える時期です。まだ繋がりがハッキリ見えない興味のタネが、コロコロ転がっているのみで、「何がやりたいか、どの分野で自分の強みを生かせるか（自分の強みは何か）、それは仕事として最初の段階からやりたいことなのか、それとも趣味（休日などのスキマ時間にできること）の範囲で満足できることなのか。自分はどんな人生を送りたいか。」など分からないことばかりです。これには正解も、不正解もないでしょうし、誰かに教えてもらえるものでもありません。考えれば考えるほど分からなくなりそうな問いです。今はとりあえず、様々な興味のタネを見つけ出すために自分の感情の変化に敏感になって、「面白そう、もっと知りたい」と思ったことを流さず、心に留め少しそのことについて自分で調べてみようと思います。



↑様々な種類の野菜が置いてあります。レストランの前のガーデンです。この施設は昔の名残で、一面壁に覆われています。画面上部に見えるのがその壁です。



↑壁の外にある農園です。手入れが十分にされておらず、収穫適期を過ぎて野菜が大きくなり過ぎています。ここでは生産性より学びやメンバー同士のコミュニケーションを重視しているそうです。



←ペットボトルを利用した野菜栽培です。傾斜をつけることで、水が行き渡りやすくなっています。見た目もオシャレな栽培です。

■品質学

この授業では果物の品質評価（香り、形、大きさ、色、硬さ、食感、酸度と糖度など）とポストハーベスト（収穫後から販売までの貯蔵や処理）について学んでいます。授業では、キウイフルーツと洋ナシの品質調査と食味調査の体験を行いました。まずはキウイフルーツ3種と洋ナシ4種の硬さや色、糖度を専用の機械で調べ、機械の大まかな使い方や、品種ごとの結果の違いからどの品種がどんな視点で優れているかを推測しました。その後、実際に食べ比べて数種類の観点（表皮の色、甘み、酸味、食感、ジューシーさ、香り、後味など）から1~10点で点数をつけ、最後にトータルで1番美味しいと思う品種をみんなで見えを出し合いました。面白いと思ったのは、甘みが1番強かったと思う品種はほぼ全員一致で揃いましたが、1番美味しいと思う品種は大きく2種類に分かれ、全体と違う品種を選ぶ少数派もいました。明確な基準がある評価では、あまり評価に差がでませんでした、「美味しい」という個々の主観に頼る評価では差が開き、大多数に漠然と「美味しい」と思ってもらうための品種開発の難しさを感じる授業でした。

食味調査は、人それぞれで個々の味覚に頼っているため、有効なデータではないと思うかもしれませんが、しかし、機械を使った品質調査では評価しきれない項目もあり、また例えば機械で量った糖度と、人が舌で感じる甘味の強さは常にイコールではありません。よって、機械で量ったデータと、人々の味覚に基づいたデータ、これらの2つをバランスよく使うことが必要であると再認識しました。また、園芸植物育種研究所のインターンでカボチャの品種改良を行うための食味調査を体験しましたが、2人のブリーダー（品種改良を専門に行う職業）が食味調査の結果で、優れたカボチャを選び抜いていました。このことから、食味調査の重要性が分かります。

また、この授業では「日本では特に、果物の皮の色や形が重要視されていますよ。なぜかというところ、日本では果物を贈り物も使っているからね。」と先生が話題にしていってました。周りの友達が「えっ、そうなの？」という反応をしており、また前に友達との会話でも、「日本では、林檎や梨などの果物を贈り物として人に贈るよ」と言ったら、とても驚いていました。私は長野出身で、私の町は特に林檎を初めとした果物生産が主な産業であったため、よりこの習慣が根強くあったと思います。日本のように、贈答用フルーツと一般流通のフルーツを分けている国は多くないようで、クラスメイトの中に同じようにフルーツを贈答用に使う人はいなかったです。（調べてみたところ、台湾や香港、中国では贈答用に高品質フルーツを贈る習慣もあるそうです。）違う文化や考え方を見つけた時には、今まで忘れてしまっていたものを見つけ出し、埋もれた中から拾い出せたような気がして、心が温かくなり今後はより大切にしていきたいなと感じます。

■病理学

植物の細菌、ウイルス、菌などによる植物の病気について学んでいます。個人的に一番授業中の情報量が多く、この授業を受けた後は特に疲れてしまうような気がします。しかし、先生の説明はとても丁寧で、過去に歴史の先生みたいと言われたことがある位、歴史に詳しく歴史と交えて話を進めてくださるので面白いです。ファイトプラズマという植物の葉や茎の黄化、萎縮症状を起こす植物病原微生物が、東京大学名誉教授の故土居養二博士によって世界で初めて発見されたこともあり、日本についての話題が毎授業一回は出てきています。今まで聞いたことがない、歴史的背景についても学ぶことができ、歴史を使って他の事柄と関連づけながら学ぶ楽しさに気付きました。

2. 生活の状況

約 2 か月経った現在、プレゼンに追われ、周りに迷惑をかけ英語もイタリア語も全く成長できていないような気がして、とても落ち込み焦っている自分がいました。しかし、早く日本に帰りたいという気持ちはほとんどなく、2月までではなくもっとイタリアにいたいと思うほどなので、ホームシックにはなっていないと思います。自分なりに理由を考えてみたのですが、おそらく外部環境（外国であること、日本語が通じない日常）に問題を感じるまたは問題が起こる原因を環境のせいにしていてではなく、自分自身の内部に問題意識を感じているからだと思います。悩んでいることの日本語が通じないということ以外は、日本にいても同じように悩むと思います。全て自分のせいだと認識するので、辛い部分はありますが、自分の問題であれば努力すれば解決に近づかずなので、前向きに取り組んでいこうと思います。寂しさと言えば、クリスマス休暇からお正月は、家族と過ごすためにほとんどのヨーロッパから来ているクラスメイトが自分の国に帰ってしまうので寂しいです。また、授業は 12 月下旬で終わり、1 月はテストのみになってしまい、テストを受けたらすぐに国に戻ってしまう友達も多いです。実感はないですが、もうお別れの時期が近づいているかもと思います。今一緒にいることができる時間を大切にしたいです。

日本に今すぐ帰りたいとは思わないですが、日本が恋しくなる瞬間がたまにあります。ここ最近感じたことを 3 つに厳選して、お伝えします。1 つ目は、コンビニです。近くのスーパーは 20 時には閉まってしまい、日曜日は営業していません。しかし、その代わりに朝は 8 時から営業しています。タバコ屋さんがいたるところにあり、バスの乗車券や、雑誌、お菓子を売っていますが、品揃えは少なくコンビニの代わりにはなっていません。コンビニスイーツが恋しいです。また、これは有名かもしれませんが自動販売機もほとんどありません。

2 つ目は、カラオケです。歌は上手くないのですが、歌うことが好きで声を出すことが 1 つのストレス解消法になっていたため、カラオケ行きたいなと思ってしまいます。今はシェアハウスに

住んでいるので家でも歌えないですし、公園で大声をだす勇気もないので、つい歩きながら口パクか小声で口ずさんでしまいます。

3つ目は、日本料理です。調味料など頭になく、日本から全く調味料を持ってきていませんでした。同じ時期に留学していた友達は、準備が良く醤油や梅干しなど持っていったそうです。醤油は欠かせないと思い、アジアンマーケットで購入したのですが、値段は日本の4倍位はしたと思います。出汁やつゆも欲しかったですが、醤油との必要性を比較した際、醤油の重要性の方が高かったため諦めました。また、イタリアでは手に入らない野菜もあり、逆に日本では見かけない野菜もたくさんあります。イタリアには冬の日本料理で定番のおでんのため的大根も、お鍋のための白菜もなく、非常に驚きました。後、キノコ類の種類も少なく、大きなマッシュルームとなぜか値段が高すぎるシメジしかありません。どれも好きなので、日本に帰るまでお預けです。しかし、1つ嬉しい発見があり、サツマイモを見つけました。なんと、イタリアのサツマイモは品種が異なり、皮が紫ではなく真っ白であったため、今まで全く気づかなかったようです。味はほとんど同じですが、やはり皮の紫色と、オレンジの対比も好きだったので少し物足りなく感じてしまいます。日本にも皮が白いサツマイモは栽培されているようですが、芋焼酎で調理用にはあまり利用されていないそうです。

さらに関連して、野菜・果物の品種で面白いと思ったことは、イタリアのスーパーではそれぞれの農産物の品種名まで表示されていることです。日本でも、同じ野菜が複数あれば品種名まで表示していると思いますが（例：サツマイモ 紅東、安納芋、金時）、例えばダイコン・キャベツ・キュウリ・ニンジンなどは品種名が表示されていない、または表示されていても気にしていないのではないかと思います。これに気付いたのは、スーパーで少し葉っぱの見た目が違うキャベツが2種類あり、どちらを買えばよいか悩んだ時と、友達に日本ではどのキウイフルーツの品種が有名かと聞かれて答えらなかつた時に気付きました。この表示の差や品種名の認識の差はなぜ起こるのか、また本当に品種名が書かれていないのか（もしかしたら今まで意識を向けていなかったため、日本で品種名の表示に気付かなかつただけかもしれない）など、気になるので調べてみようと思います。本当にそうであるかということも大切かもしれませんが、今まで気づかなかつたことに目を向けるきっかけになったことをより大切にしたいので、今後も小さな違和感をしっかり感じ取れるように意識していきたいです。

11月13日にボローニャで初雪が降りました。いきなり雪が降り、例年雪が降るのは12月以降らしいのでイタリア出身の学生も先生も驚いていました。



授業中に降り始めたので、授業中の5分間休憩にはみんな外に出て雪の写真を撮り、その後キャンパス内のグラウンドを、テンションマックスで自転車で駆け回るクラスメイトの動画がグループトークに投稿されていました。久しぶりにこれほど雪が積もったのを見たので、少しワクワクしました。

1日ですぐに止み、12月初旬ですが2度目の雪は降っていません。ホワイトクリスマスを密かに期待しています。

学生に大人気のコーヒーマシンです。私たちの学部が毎日使っている教室の前にあり、朝や休憩中に飲んでいる友達が多いです。なんと、32種類もあります！

私のお気に入りには38番のcioccolatoで、日本でいうココアです。学生はここか、学校のカフェテリアでコーヒーを飲んでます。カプチーノ(1.2€)が好きです。

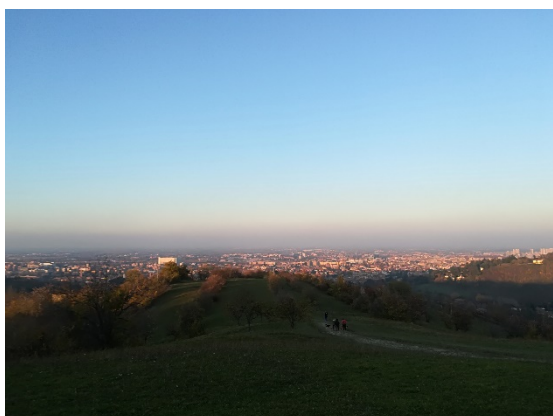
日本では大学の生協でお弁当が売っており、食堂もあるため種類も豊富ですが、イタリアでは大半の学生がお昼ご飯を持参しているためか、売っている食べ物の種類も少ないです。お弁当箱は一般的ではなく、みんなタッパーにマカロニや炒め物などのおかずを詰めています。私はお弁当箱を使っていたので、料理を区切りたくなってしまい、一つのタッパーを使ってもサランラップで区切って詰めています。友達に、「また区切ってるね、面白い」といわれています。

クラスメイトがいきなりバーベキューを計画してくれ、景色がとても綺麗な小さな山の上でバー



ベキューをしました。それぞれが野菜やお肉、パンを持ち寄り、美味しい食べ物と澄んだ空気の中でリラックスできました。みんなで集まる時は、ワインを持ってくるのが当たり前で、みんなでそれぞれが持ってきたワインを飲みました。

お昼後にはフリスビーで遊び、暗くなったらたき火の周りで音楽を流しながらみんなで踊りました。みんな踊るための音楽に詳しくて、お気に入りの音楽が流れ始めたら「これこれ！来た！」のようにテンションが上がっていました。全く踊る用の音楽を知らなかったですが、少しずつ聞き覚えのある曲が増えてきました。とても楽しく、幸せな時間となりました。



次は、インド料理パーティーです。ずっと話したいと思っていたけど、なかなか話す機会がなかったインド出身のクラスメイトに話しかけることができ、インド料理の話をしていたら、「よかったら今日のお昼インド料理で馳走するよ！」とお家に誘ってくれました。右からカレー、バナナとシシトウの揚げ物、スナック菓子です。どれもとても美味しかったです。シシトウの揚げ物が見た目によらず、辛くて驚きました。後、ご飯にプレーンヨーグルトをかけて食べるのは初めてでした。手でご飯を食べるのに苦戦しましたが、教えてもらい徐々に慣れることができました。クラスメイトみんな素敵で優しく、本当に出会えて良かったと感じる毎日です。



海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2017/12/01～2018/01/05)

1 勉学の状況

今回はイタリア語や言語の勉強を中心に振り返ってみたいと思います。

■品質学

キウイフルーツの工場見学に行きました。



日本をはじめとしたアジア圏にも輸出をしているキウイフルーツを取り扱う企業の工場でした。キウイフルーツの量に圧倒され、特に左下写真のキウイフルーツの重さによって仕分けする流れは面白く、ずっと見ていました。機械化されている部分と人の目や手が必要な部分があり、機械化が進んでも「細かい品質検査」など人の目にかなわない部分はあると気づきました。



最後のグループプレゼンでは、「りんごの品質やポストハーベスト（収穫後、貯蔵方法などによって、品質が落ちないようにする技術）」についてプレゼンしました。今まで数回あったプレゼンでの反省を生かし、一番自分の中では良いプレゼンができたのではないかと思います。早めに準備を始め余裕を持

ってスライドを作る、本番を想定して自分にあてられた時間内に終わるようにするこの2つを特に意識しました。練習の時、時間内に終わっても本番は言葉が詰まり、スライドの操作により時間がかかりやすいので、最初から台本の分量は短めに準備をしておきました。また、自分がプレゼンを聞く立場だと情報量が多すぎて覚えられることは少ないので、できるだけ分かりやすく簡潔なスライドを心掛けました。



■病理学

研究室での実習が3回あり、10人弱のグループで病理の研究室を回りました。少人数で先生方との距離が近く、積極的に質問ができ、今まであまり理解できていなかったことについてとことん聞くことができたため、貴重な機会になりました。

■イタリア語や言語の勉強について

イタリア語をほぼ全く話せないので参考にはならないかもしれませんが、イタリア語を勉強する中で思ったことを自分の考えを整理していくためにも述べていきたいと思います。

言語の勉強には色々な方法がありこれが良い、あれが良いと言われていると思いますが、一番大切なのは自分に合った方法を見つけることかなと実感しました。私は、英語の勉強でも誰かと会話することが一番好きで楽しいと思うため、会話ベースの勉強をしてきました。しかし、今までイタリア語で会話ができるほどのレベルに達しておらず、自分からあまり積極的に会話をする環境を作っていませんでした。今回大家さんのお宅に数日泊まらせていただき、イタリア語を話さなければならぬ環境に置かれ、イタリア語で会話をする中で「このことを伝えたいのに、言い方が分からない。悔しい。何とかして伝えたい！！」と思う場面が何度もあり、それが私の勉強をするモチベーションを高めてくれました。この経験が私のイタリア語勉強の人生を大きく変えたといっても過言ではありません。(これまでではイタリア語の勉強をしたい、しなければと思っていても、あまり楽しむことができなかったので進みが悪かったです。)

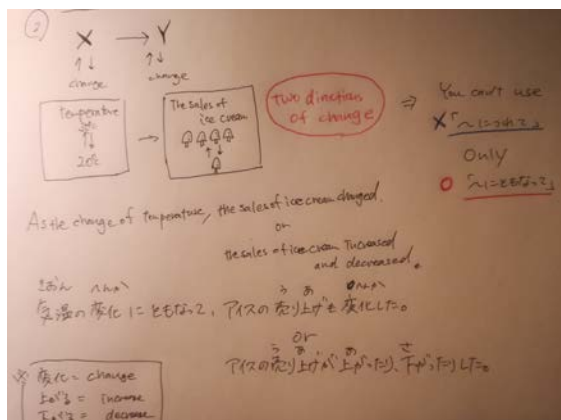
新しい言語を勉強する一般的な方法では、中学校で英語を習った時のように教科書を使い、教科書の順番にならって最初の簡単な文法から少しずつ難しい文法を学んでいきます。これを教科書ベースの勉強法とすると、教科書で学んだことを会話で使うという「教科書→会話」の流れができると思います。しかし、私にはこの方法があまり合わず「会話→教科書」という逆の流れの方が楽しく、自分に合っていると思いました。「会話→教科書」の流れは、ほぼイタリア語を分か

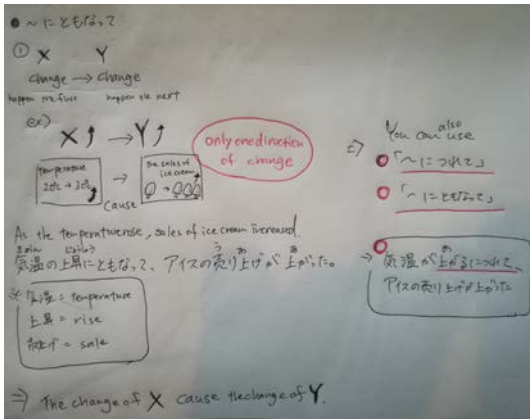
らなくても無理やり会話をし、会話をしながら伝えたいと思ったことを辞書で単語と教科書で文法を調べながら文章にしていきます。つまり教科書の順番に従って勉強するのではなく、自分の使いたいタイミングで、教科書の使いたい項目を使うイメージです。例えば、「私は昨日りんごを食べました。」という文章を作ろうとしたら、「過去形」のページと「主語」「名詞」のページを見て、文章を作りながら過去形の作り方を勉強します。それを繰り返すので、会話と教科書を行き来しているような感じです。

私にこの方法が合うのは、会話をすることに一番楽しさを感じ、「知りたい！勉強したい！」と気持ちが高まってから勉強するほうが面白く楽しいと思うためです。「自分はどんなことに楽しさを感じるか？」「何が自分のモチベーションを高めるか？」を考えると、自分に合った方法が見つかるかもしれません。（英語の勉強を振り返ってみると、試験・映画・音楽を使った勉強はあまり合っていませんでした。私は、オンライン英会話と Ted talk という短いプレゼンを使った勉強が一番合っていて、楽しかったです。）教科書をメインに使った勉強を楽しめず、せっかく学びたいと思ったのに諦めてしまうのはもったいないので、そんな場合は一度教科書を手放してみてもいいと思います。

「会話→教科書」の勉強法は、私が今イタリアにいるからできる勉強法だと思う方もいらっしゃるかもしれませんが、しかし、実際にその土地に行かなくても、言語交換やオンライン英会話などで日本にいても外国語を会話ベースで使う機会はあると思います。言語交換とは、日本語を勉強したい人と、その人の母国語を勉強したい人を繋げ、互いに言語を教えあうものです。私は最近「My language exchange」と「Tandem」という言語交換サイトを利用し始めました。基本的にはチャットでのやりとりで、たまに通話や音声を送って会話をしています。使い始めたばかりなので、また次の報告書で良さなど私を感じたことについてお話ししたいと思います。

言語交換の特徴は、一人一人が母国語の先生になるという点です。普段あまり意識をせず使い分けている「に」「へ」の違いや「～に伴って」「～によって」の違い、「落とした」「落としてしまった」の違いの説明を英語やイタリア語で求められるため、日本語を勉強し直すよい機会にもなっています。正直明確な違いが分からず、まずは日本語でネットを使って調べ、自分なりの解釈を見つけてから英語やイタリア語で説明をするため、とても難しいですがそれと同時にやりがいと楽しさを感じています。





※「～に伴って」「～によって」の違いを説明した際に使ったノートです。（私はチャットに書くより、ノートに手書きで書くほうが好きです。）うまく説明ができなかったので、他にも説明方法がありましたら、是非教えていただきたいです。中には日本語を5年ほど勉強されていて、とても上手な方も多いので英語でチャットができるか不安な方も一度使ってみても良いと思います。また、第二外国語を学ぼうとしている方でその言語

が全くできなくても、興味がありましたら是非試してみることをおすすめします。日本語を学びたいという方の中にも、平仮名が読めない方やこれから勉強を始めたいので、何から勉強すればいいか教えて欲しいという方もいらっしゃいます。様々な方々とチャットする中で、実際は現在の言語のレベルは全く関係なく、その言語を学びたいという気持ちの方が大切だと気づかされました。私は今までイタリア語が全くできない状態では会話はできないだろうと思っていましたが、本当は会話をしながらも学ぶことができ、その方がもしかしたら楽しく上達も速いかもしれません。（できるようになってから会話をしようと思うと、学びには終わりが無いので学べば学ぶほど知らないことが増えてきて、いつまでも踏み出せなくなってしまうのではと思います。私もそのタイプなので気を付けます。）

そこで！その言語がほぼ分からない状態でチャットをする際には、お馴染みの Google 翻訳が欠かせないと思います。大きさに言うと Google 翻訳が使えなくなったら生きられないほど、イタリア語勉強の相棒として助けてもらっています。私の Google 翻訳の使い方は、まずイタリア語を英語に翻訳する形（イタリア語→英語）で始め、イタリア語の文章を分かる部分だけ作ります。その後、翻訳結果に出てきた英語の文章を逆翻訳（英語→イタリア語）して、足りない部分の英単語を足しイタリア語に翻訳してもらいます。再度イタリア語（イタリア語→英語）にして、細かいところを直して完成です。全て Google 翻訳に頼るのではなく、できる範囲まではまず自分でやってみることを意識しています。個人的には、パズルのピースを一つ一つはめて、ゲーム感覚で文章を作っているような感覚です。

最後に、一番イタリア語を学ぶ中で感じたことは「学びを楽しむことはできる」のではないかと思います。楽しく思えないのならば、その勉強法やモチベーションを維持する目的が自分に合っていないのかもしれませんが。

2. 生活の状況

■ Mulled wine party

クラスメイトが、パーティーを企画してくれ、なんとカッコいいチラシまで作ってくれました。(背景は以前のバーベキューの時の写真です) ドレスコードに、「Tropical rain forest (熱帯雨林)」と書いてあり、全く意味が分からず何度もネットで「熱帯雨林 服装」と調べましたが、結局そのような服は持っておらず普通の服で行きました。中にはトロピカルな感じの服や迷彩柄の服を着ている人もいました。タイ出身の友達がタイ料理の春巻きやご飯をご馳走してくれ、また mulled wine (日本でいうホットワイン) という赤ワインにレモンやオレンジのスライスを入れて、シナモンなどの香辛料を加え加熱したワインを作ってくれました。ヨーロッパのクリスマスにはかかせない飲み物で、加熱することでアルコールも飛んでおり飲みやすく体も温まり、とても美味しかったです。手土産に、日本酒と芋けんぴをもっていきました。



■クリスマス期間

クリスマスのボローニャです。右はクリスマスマーケットの写真です。



クリスマスには、ほとんどのクラスメイトが実家に帰ってしまい、実家が遠くて実家に帰っていない友達とちょうど12月前半に実家に帰っていたシチリア出身の友達がボローニャに残り、一緒に楽しい時を過ごしました。日本に来たことがあるタイとプエルトリコ出身の友達が、「おにぎりや天ぷら大好き！食べたいな！」と言ってくれたので、急遽日本食パーティーを開くことになりました。アジアンマーケットで、海苔やワサビ、カレールーを買い、おにぎり・カレー・グラタン・天ぷらを作りました。友達がベジタリアンなので、ヘルシーに野菜のみ ver です。

※ちなみに、アジアンマーケットでは、日本で買う値段の3倍ほど、物によってはそれ以上してしまうので日本食を友達に振る舞いたいと思われたら、荷物に余裕があれば日本から持っていくのも良いと思います。私は調味料などを日本から持ってくるのを忘れてしまいましたが、友達は醤油や梅干しなどを持ってきたようです。



友達に飲み物とスナック菓子をお願いしたら、冷蔵庫いっぱいになるくらいのビール瓶(750ml) 10本くらいと、ワイン、何袋ものお菓子を持ってきてくれたので本当にびっくりしました。みんなお酒強いですが、5人しかいなかったので流石に飲み切らず、料理も多すぎて食べきれなかったのもので、次の日に「おにぎりパーティー」もすることになりました。

ホームパーティーやみんなが集まる時には、ワインやビールを持ち寄るのがイタリア流?みたいいです。一人でビール瓶 3本飲んでいる友達も多いです。街中の道路や広場でも、ビール瓶やワイン片手に学生がお話しているのをよく見かけます。

イタリアでのクリスマスは、なぜか日本食に囲まれ、日本でもここまで日本らしくはならないだろうというほど、日本色の強いクリスマスになりました。ですが、デザートには Pandoro(パンドーロ)というイタリアでクリスマスに食べる、背の高い星型のスポンジケーキと、チョコとクリームシューアイスを食べました。

イタリアという地で、シチリア、タイ、プエルトリコ、日本と色々な地域出身の友達とクリスマスを過ごすことができ、幸せでした。



※大好きなクッキーです！左は私の手作り、右は友達のお母さんの手作りです。友達のお母さんが作ってくださったクッキーは、色々な味があってお店で売っているものの何十倍も美味しかったです。

■大晦日からお正月にかけて

シェアハウスをしているのですが、新居者が来るということで大家さんと一緒に家中の掃除をしました。その時に、大家さんにイタリア語を話せるようになりたいと相談したら「私の家において、一緒に生活しながらイタリア語を話すのが一番良い方法だよ」と言ってくださり、その後色々トラブルもあったため結局約 1 週間もお世話になりました。何度感謝しても、感謝しきれないです。

<29日>

約5時間20時過ぎまで、一緒に大掃除をしました。その後は大家さんのお友達のお家で、とても美味しいイタリア料理をご馳走になりました。4つサラミの食べ比べ、チーズ with バルサミコ酢、鶏肉の煮物、豆の煮物とお肉、じゃがいもの炒め物・・・それに、デザートには、アイスケーキをいただきました。

夕ご飯の後には、大家さんのお友達の旦那さんと同年代のお子さんと4人で、〇〇というゲームをしました。RPGのような役職によって効果が異なる協力ゲームで、サイコロを的に向かって振り、それで得た得点で様々なゾンビを倒すゲームです。このゲームの面白いところは、サイコロの投げ方の指示があり、足の下から手をくぐらせて投げたり、おでこにサイコロを当てて投げたりと無茶なお題がたくさんあるところで、みんなで「無理でしょー」といながら戦略を立て

ることはワクワクします。イタリア語も話せず、初めてお会いしたのに快く受け入れてくださり、人の温かさを感じる日々でした。この時の私は、数日後さらに2回もお友達のお宅でご飯をご馳走になるとは思ってもいませんでした。本当にびっくりです。



※右の写真は、イタリアでクリスマス期間に飾るプレゼーピオという人形です。キリストの生誕をジオラマにしたもので、キリスト・聖母マリア・天使・羊飼ひ・農家・羊・牛など様々な人形が飾ってあります。とても可愛らしくて写真をとらせてもらいました。

<30日>

イタリア流の朝ごはんは、クッキーとカプチーノ（コーヒー）が欠かせず、プラスしてヨーグルトやパンを食べるそうです。朝食にクッキーはあまり馴染みがないので、驚きました。後、大家さんの入れてくれるカプチーノがとっても美味しいです、毎朝の楽しみになっていました。お昼には、トマトパスタ、夕ご飯には大家さんの出身地原産のお肉料理をいただきました。



※大家さんが可愛いラテアートを描いてくださいました！

30日はひたすら自分でイタリア語を勉強し、以前大家さんとの勉強会で教えていただいた過去形や未来形の復習をしながら、自分で色々な文を作ってみました。できるだけ実用的で身近に感じそして自分自身が楽しみながら勉強できるように、友達の名前を使いながら実際にあったことを文にしました。

<31日>

朝から、大家さんのお友達とそのお母さんの5人で教会と街巡りにいきました。聖堂の前の広場にチェスのモニュメントが置いてあり、なんとそれを年明けの瞬間に燃やすようです。日本の小正月に行く、どんど焼きと似ているかと思いました。(私の地元では、どんど焼きのことをほんやりと呼び毎年行っているのですが、最近行わない地域もあると知り驚きました。)



夜は、まるで映画の世界の中にいるようなきれいな劇場に演奏とオペラを聞きに行き、表には出していないでしたが、実は内心とても高揚していました。本当に劇場が素敵で、何枚も写真を撮ってしまいました。二人のオペラ歌手の方がとても素敵で、言語が分からなくても表情や演技にとっても感情が入っており、世界観に飲み込まれました。

劇場には、ディナー会場もあり、そこで白ワインとバイキング形式の食事で、サンドイッチやタルト、名前を覚えられないものばかりでしたが色々なものを食べました。もうちょっと食べたいなと思ったところで帰ることになってしまったと思ったら、またまた大家さんのお友達のお家で追いディナー?のような形でたくさん美味しいイタリア料理とデザートをご馳走になりました。食べ物は持ち寄りのようで、今まで食べたことがない様々な料理をいただくことができ幸せでした。流石にすぐにお腹がいっぱいになってしまったのが残念でした。私の両親と同じくらいの年代の13人の中に、イタリア語もろくに話せない21歳の私がいるという、とても不思議な空間でしたが、とても温かく受け入れてくださり楽しい時を過ごすことができました。ずっと「この料理の名前は何か?」や「何が入っているのですか?」と聞き、「Buono!(美味しい)」を連発していました。

年明けの瞬間。テレビでは、日本の紅白歌合戦のような歌番組でカウントダウンが行われ、みんなスマホやテレビのカウントダウンを眺め、高揚感がひしひしと伝わってきました。新年を迎えた瞬間、シャンパンのふたを開け「Buon anno (あけましておめでとうございます)」の音が響きわたり、大盛り上がり。そして、イタリア流の新年の挨拶を経験したのですが、なかなか慣れないものでした。新年最初には、女性はまず男性と挨拶のキスをし、それからそこにいる全員と「Buon anno」と言いながら挨拶をします。イタリアの挨拶はハグをして左頬をくっつけてキス音を出し、次に右頬をくっつけてキス音を出します。少しずつこの挨拶にも慣れてきましたが、13人と連続で挨拶するのは初めてで緊張してしまいました。少し恥ずかしいですが、人との距離と縮めることができるこの挨拶を楽しんでできるようになってきました。

新年になり、バルコニーに出てみるとあちらこちらから花火や爆竹のような音が聞こえてきました。イタリアでは、年明けに花火をするのが一般的のようです。日本の鐘の音と異なり、とても賑やかで。家に帰ったのが2時過ぎで、お腹もいっぱい眠気もありすぐ寝てしまいました。

<1日>

二日連続で劇場にて演奏を聞くというとても優雅な新年を過ごしました。それに、指揮者はボローニャ歌劇場フィルハーモニーで日本人初の芸術監督を務める吉田裕史さんでした。

↓産経フォトの記事です。良かったら読んでみてください。

<http://www.sankei.com/photo/story/news/180102/sty1801020001-n1.html>

演奏に合わせてドレスとタキシードをお召しになった方々がダンスをされており、昔のヨーロッパの世界に戻ったようでした。とてもリラックスでき、非日常の時につかり、改めて音楽の素晴らしさを感じました。最後は「Buon 2018 a tutti」と新年を祝うメッセージが掲げられました。



後から教えてもらったのですが、普通はチケットが 100€ (13000 円) ほどするらしく、お家さんのお友達がオペラ関係のお仕事をされていたため、その関係でなんと 20€ で演奏を拝聴させていただけたようです。

夕食はまたまた大家さんのお友達のお家で、ご馳走になりました。昨日お腹いっぱいあまり食べられなかった料理をまた食べることができたので、とっても幸せでした。○○にマスカルポーネチーズをかけて食べるのが、お気に入りの食べ方です。自家製の 3 種類 (ザクロ、メロン、チェリー) のリキュールもいただきました。こんなアルコール度数高いものをショットで飲むのかと驚きましたが、特にチェリーのリキュールが美味しかったです。

その後 1 月 2 日に自分の部屋に帰ってきたのですが、その日の真夜中に熱を出し、今までに体験したことがないレベルの寒気を感じ、失神して倒れてしまいました。失神したことがないのでとても怖くなってしまい、大家さんに「もし明日の朝、私から連絡がなかったら様子見にきてもらえますか?」とお願いしたら、真夜中にも関わらず迎えに来てくださり、回復するまで 2 日間看病していただきました。感謝しきれないです。本当にお世話になりました。素敵で優しい方々に巡り合うことができ、私は幸せ者です。

■体調を崩した際に

留学始まってから大きく体調を崩すのは、これで 2 回目でした。慣れない環境なので、想像以上に体調を崩しやすいと思います。(普段は 1 年に 1 回風邪をひくか、ひかないかのレベルです) 私は日本から持ってきた、風邪薬と留学オリエンテーションで教えていただいたアクエリアスの粉末を使っていました。また前回体調を崩した際には、日本で買ったインスタントの卵スープと、

こちらでハチミツ、ショウガ、ネギ、卵などを買い雑炊を食べていました。

風邪をひいた際に役に立つものをお話したついでに、日本から持ってきてよかったもの、持ってくればよかったものについて書いていきたいと思います。(私が思っているだけなので、参考程度に見ていただければ幸いです。)

✿<日本から持ってきてよかったと思うもの>✿

- ・風邪薬 (多めに持ってきました。)
- ・卵スープなどインスタントスープ
- ・アクエリアス粉末
- ・カイロ
- ・湿布
- ・折り紙(ちょっとしたお礼に鶴などを折って、一言添えて渡しています。ミニレターとしても。)
- ・ウェットティッシュ (こちらでも買うこともできますが、高いらしいです。便利です。)

✿<日本から持ってくるべきだったと思うもの>✿

- ・調味料など (醤油、海苔、カレールーなど)
- ・日本酒 (ホームパーティーなどのお土産に。こちらで買うと3倍程度しました。)
- ・箸 (こちらで買うこともできますが、3倍程度するようです。)
- ・イタリア語の単語帳 (文法書は持っていましたが、単語帳を忘れました。日本語で書いてあるテキストはこちらではほぼ手に入らないです。)
- ・日本語で書かれたガイドブック (観光用に)
- ・パスポートなど必要書類のコピー
- ・顔写真 (滞在許可書用など)
- ・洗顔剤 (洗顔剤が売っておらず、メイク落としを使った後はお湯で顔を流すのみらしいです。)
- ・洋服消臭スプレー (たばこや煙の臭いがコートについて、とても困りました。匂い系は外国で買うと失敗しやすい気がします。一度他の国で買って匂いが強すぎて失敗しました。)

私も来る前にとっても心配していましたが基本的にはなんでも手に入るの、そこまで心配する必要はありませんでした。もし他に持ってきてよかったもの、持ってくるべきだったものなど思いついたら、次回の報告書に書きたいと思います。

ありがとうございました！